

# 小学校の保健の教科書における掲載図表の検討

滝 日順 (静岡大学)

## 1. 目的

検定済みの保健の教科書は、教科の主たる教材として小学校の保健の授業場面において積極的に活用されており、児童の“豊かで確かな保健の学び”を支えている。価値ある保健の授業の創出に向けての保健の教科書に寄せられる期待は、以前から大きいものがあり、学術研究の成果や教育の実践場面からのニーズも反映されながら、児童の学ぶ意欲を喚起し、基礎的基本的な知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力等、また健康に関する問題解決能力の育成等を目指すための様々な配慮や工夫が、その保健の教科書には多く盛り込まれている。

その具体のひとつとして挙げられるものが、保健の教科書に掲載されている“図表”である。

図表に備わっている知的な刺激は、保健を学ぶ児童にとって、重要な情報源(=教材)であり、その意味では、図表の“量”と“質”は、児童の学びの“量”と“質”に大きな影響を与えるとも言える。

このような保健の教科書の図表であるが、今後の教科書のデジタル化への移行や学習指導要領の改訂も踏まえ、保健の授業のより一層の充実に向けた図表に関する検討・研究が、今こそ、その重要性を増しているものと考えられる。国の教科書制度に基づく教科書検定の場面でも、図表に対する修正意見も複数見られ、適切性が確保された図表の姿を追求しようとする社会的要求も大きい。加えて、先行研究で検定を通ったあとの図表であっても、分析・検討の視点によってはその表記上の問題点が浮かび上がることも指摘されており、これらの状況を踏まえ、保健の教科書の図表に関する基礎的な研究の蓄積や継続的な研究の推進が求められるところである。

そこで本研究では、保健の教科書の図表に備わっている“教材としての価値”の維持とその質的な向上を願いつつ、現在小学校で利用されている教科書内の図表に注目し“表記上の質的な意味内容において再検討の余地があると思われる図表”を抽出することを通して、小学校の保健の教科書の図表に関する課題の一端を明らかにすることとした。

## 2. 方法

調査の対象とする教科書は、平成 25 年度に検定申請され、検定規則・検定基準に基づいた教科書調査官らの調査と教科書用検定調査審議会の審議を経て、“合格”を得た、東京書籍、大日本図書、学研の 3 社の保健の教科書とした。

方法としては、保健領域の記載ページから、すべての図表を検討対象とする中で、“表記について再検討の余地があると思われる図表”を 3 社分比較しながら分析・抽出した。その分析・抽出にあたっては、その単元の教育内容との照らし合わせとともに、他教科の教科書図表との比較を通して行う。また、研究協力者と別途に分析・抽出を進め、それぞれの結果を持ち寄り、結果について意見の異なる図表については、再度専門書等との比較を踏まえた慎重な調査を進め最終的な判断を下すこととした。

## 3. 結果

調査の結果、約 200 点の図表の中から 54 点の“表記上の質的な意味内容において再検討の余地があると思われる図表”が抽出された。

## 4. 結論

検定済みの教科書であっても、多角的な視点を踏まえながら教科書の図表を分析・検討していったとき、表記に関して訂正や改善作業を見据えた再検討の余地があると思われる図表は、少なからず発見されていく。今後、多くの実践者・研究者が教科書図表の課題を指摘しあい、その指摘を効果的に教科書の質の向上・発展に繋げていくことが、保健の教科書及び保健の授業の価値・魅力を更に高めていくためには必要なことになるであろう。

<参考文献>

1) 「保健・保健体育教科書(保健の領域・分野・科目)の掲載図表の検討」 赤田信一、山田浩平、滝日順、今井敦也 日本保健科教育学会第 3 回研究大会 2018.12